

児童に「選挙は大切だよ」

刈谷・双葉小 愛教大生が講師役に



模擬投票の演説後、児童からの質問に答える候補者役の大学生たち。刈谷市双葉小で

小学生に選挙の大切さを知ってもらおう刈谷市選管主催の出前教室が十四日、同

市双葉小学校であり、地元愛知教育大の学生らが講師や候補者役を務めた。

二〇二二年度から続く主権者教育事業の一環。一八年度から愛教大が協力し、本年度は四つの小学校で開催。愛教大社会科学教育講座の清田雄治特別教授（みゆか）ら政治学や法学の指導を受ける学生らが模擬投票の公

約内容を考えるなど準備してきた。

四年生の学生六人が来校し、双葉小の六年生百一人が受講。模擬投票では学生が候補者役となり、校長先生になったら実現したいことを演説した。

「図書館にみんなが興味のある漫画を置きます」「毎年ギネス記録に挑戦します」などの訴えを聞いた児童たちは、本物の投票箱や記載台などを使って投票を

体験。受付や投票立会人なども務め、開票作業も手伝った。

次点に二十四票差の五十四票で当選した吉戸鉄人さん（こへ）に投票した六年の二宮詩さん（し）は「（教科書などを学校に置いていく）『置き勉』を許可するとういふ公約を聞き、登下校の負担を考えてくれていた点が良いと思った」。石川優那さん（ゆな）は「選挙の大切さを知ることができたので十八歳になったら必ず投票に行きたい」と話した。

吉戸さんは「児童が楽しそうに参加してくれて良かった。十代の投票率が低いことも伝えられたので『自分には行かなきゃ』と思ってくれたならうれしい」と話した。

（神谷慶）